

新世代の解体業に向けて 「環境」への優しさを重視



株式会社 大塚機工

Environmental Protection



〒 226-0011

神奈川県横浜市緑区中山町 676-8

ファミールマートバ B-202

TEL 045-932-9084 / FAX 045-932-9085

E-mail obk-919@otsukakikou.co.jp

URL <http://www.otsukakikou.co.jp>

company data

代表取締役

大塚 晃広

神奈川県横浜市旭区出身。中学卒業後の16歳から解体業に携わり、24歳で起業。2008年2月、弟とともに(株)大塚機工を設立した。環境と現場に対する気づきを大切に、日々の業務に励んでいる。



専務取締役
大塚 篤志

工事部長
佐藤 諭

大門 解体業をメインに活動されていると伺いました。

大塚 はい。とにかく「社会に出たい」という気持ちが強く、16歳の頃から解体業に携わるようになりました。現在では専務を担う弟と社員一同力を合わせ、会社を運営しています。

大門 兄弟で活動されている、と。

大塚 はい。弟とは歳が3つ離れていますが、偶然にも誕生日は同じ9月19日。それが関係しているかは分かりませんが、小さい頃から仲は良かったですね。だけど、弟も仕事に対するこだわりやポリシーを持っていますから、意見がぶつかることもあります。

大門 では、独立された経緯とは？

大塚 独立はこの仕事を始めたときから考えていました。あと、前に勤めていた

解体会社の社長とどうしても価値観が合わず、喧嘩別れしたことも原因の1つです。実際、独立後に圧力をかけられたこともありました。そのなかで「何とか前会社の社長を見返したい」という気持ちが、私の原動力となっています。

大門 色々なご苦労があったのですね。

大塚 ただ、それまでは現場しか知らなかった私も、経理面や営業面を学びながら、色々な方の支えでここまでくることができました。

それでもやはり、どうしても現場では騒音や振動、廃棄物の問題など、世間一般の解体業に対するイメージは決して良いものではありません。そういうこともあり、近隣の方には迷惑がかからないよう最大限の努力をし、業務を遂行しています。

大門 では、この仕事の難しい点とは？
大塚 危険を伴う仕事なので、安全に作業を進め、いかに産廃を出さないようにするかが大切です。そのなかで、いかに近隣さんやお客様に迷惑をかけず、会社として利益を出していくことのバランスが難しいですね。私たちのテーマは「環境に負荷を掛けないこと」。解体業という仕事を「壊す」という視点ではなく「分別する」と捉え、廃棄物をできる限りリサイクルに出すように心がけています。

大門 その姿勢を続けていくことで、解体業に対する悪しきイメージは払拭されていくでしょうね。
大塚 これから先も解体工事という仕事を通じ、地球の環境保全に貢献していきたいと思います。私の夢は、現役を引退するような年齢になったとき、それまでに貯めたお金で「孤児院」のような施設を建てること。子供が好きで、幼稚園か小学校の先生になりたいと思った時期もありました。でも、残念ながら学力が足りず(笑)。だから、別の形で子供たちと関わっていきたくて思っているんです。



Guest Comment 大門 正明 (俳優)

社長の場合は、いい意味で「歳相応」ではない。堂々と、自分の考えや信念に全く揺らぎがない。そして将来についても、とても優しい夢を見ていらっしゃる。本当に立派だと思います。「夢」とおっしゃいましたが、社長なら必ず実現してくれると確信しました。

